

夜の海へ

柴田康弘

森の輪郭が際立ち

声のような予感が

巻雲をかすめていく

九月の風のみなもとに住む

一匹のムカデ

すべてのまなざしから放逐されて

地平に辟易しつつ

見つけ出したい水源

押し流されていくもの
(うすい憧憬であつたり……………)

とうめいな手によつて
受け渡される季節

雲とテーブルと
もう一つの層が

秋なのだ

滅んでいく光の遍在
つらぬいていくものたち

夕陽の傷口に
暗闇が深く沁み込んで

黒い乱雲の力に支えられた
海よ